

40P

至急親展

五 一六

受信二二〇一五

譯了二二二〇

電〇八二五一

作動〇

第二輪送

東 通・吳鎮口
佐 通

密第一六一七〇一番電

電信者 横鎮口・佐鎮口

通報 GB・GF各口 GEB口 大海參一部長

第十三號輸送艦行動豫定十七日正午横須賀發内海經由二十一日佐世保
等ノ豫定

通九一八回 天二〇々十一(三)横須賀(石田(飯田))

405

至急
親展

五 一七 受信開始 〇〇八四一三四 譯了 〇八三五 電 〇八三三七 人事

海軍 密第一七〇〇四〇番電

宛 人事局長

通報 二 K F 長官 二十一 A B G V

本職不徳不敏ニシテ本職ニ留マルコト不適當ナリ御配慮ヲ乞フ。

石戸部三ツ

通九三七一 佐B (六一二二二、五K) (二二一通)

海軍

第十個

406

五
七
七
受
始
一
八
三
〇

電
〇
八
六
六
三

電
〇
八
六
六
三

人
事

第十
課

東 通 第一〇方面艦隊
シヤカルタ在勤武官

密 第一七一六〇三番電

發 第二南遣艦隊參謀長

宛 人事局長

如字宛ニ新出ス

當隊機密第〇三〇九二一番電關聯

第五警備隊副長 大谷少佐以下至急發令方取計ハレ度

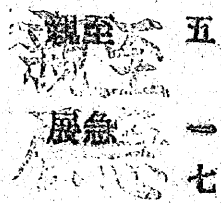
尙陸警科長豫定 秋松(五二三〇)ハ既ニ轉出濟ニ付大尉富永(四

〇一〇)ヲ分隊長ニ充當サレ度

通九七二五 仁B(一八三六七、五K)二一通

海 軍

407
初
○



五 一七 受信 一八四七 譯了 一九〇六 電 〇八六一三 人 事

東

通

大村 航空 隊

暗號 秘

機密第一七一六五一番電

宛 人事局伊藤局員

恆川へ五六八〇ハ戰團第三〇六飛行隊轉出不適任ニ付二一〇空
轉出ノコトニ取計ハレ度尙青目(日七五三一七)二二〇空ヲ三五二
ニ變更サレ度

伊藤局長 後 處理ノ事トス

通九七九七 呂一Dケ一(五二〇〇K)佐通 海 軍

第十信

408

二〇、五、一八 談話 二〇〇 談了 一八五 電 〇九四三 特政。人事

◎ 瑞典武官

◎ 次官 次長

暗號極秘 機密第一六〇番電

ワシントン「泰」ローター「報」依レバ 独ヨリ日本向テ、独立一復
ハ五月十三日「三」ホントラ「止」沖五〇。淫ニ於テ米海軍一
降伏セルガ同形ニハ 独將官三名 日本士官二名 乘取
ニアリ 米軍が到着セル際ニハ 日本士官ハ 自決シアリ
タリト 或ハ 右日本士官二名ハ 庄司 友永 面技術
中佐ニ 非ズヤト 思考セルル。

(終)

通一〇三〇 毛C

録

海防

軍

第十條

ニキルハ 誤信ハ吾。誤了一九五電の九三六 特改。航政航本

親

① 次官、次長

② 瑞西武官

海軍機密第一

のニ番電

通報人 東局長、航本、航本、総務部長

阿瑞 中武官

409

米大西洋航隊長官「イングラハ」齊表ニ依ルハ五月十三日
「サンホンドラ」沖約ハ。新附近ニテ日本向ケ、独ハ一
カ米海軍ニ降伏セリ米人が同航ニ到着セシ時ハ便乗シ
アリシ日本海軍士官ニ名ハ自殺シヤリタリト(十七日ワシントン

奈ロイター電)前後ノ事情ヨリ推察スルニ右ハ三月上旬
「パール」ヲ放棄セル及「永」庄司面技術中佐便乗、モノ、
如ク同航ニハ「ロケット」飛行機及同圖面等運送兵機

通百三十一モロ

鈴壽 海高 権

第百三十一番電

資料ヲ獨裁シアリタリ尚同業ノ独空軍大將ヲスケラーニ行
ハ米軍ニ取容セラレタリト

信ズベキ独海軍筋ノ内報ニ依ルハ三月下旬ノイルモトヲ密
セル山本技師中井嘯龍便業ノ独ハ以後消息不明
搜索セルモ手掛ナキ矣等ヲ判断スルニ三月下旬ノイルモト
ノイル正中間附近ニテ索魂セラレモト認ム

(伏)

海軍

第百一十号

410

親展

五
一八
受信
一五五〇九
一三二〇〇
電電〇〇
九九一四四三
軍務。人事
令

晴號軍機

機密第一八一—一三番電二分ノ二

發 第二南遣艦隊參謀長

京 軍務局長・人事局長・大海參一部長・十月日參謀長

四警機密第一七〇〇四〇番電開聯

四警司令ハ四月下旬來「ス」又二十一根司令官ハ五月下旬四警ヲ巡
視シタルモ何等本電ニ關スル如キ事情ヲ認メズ（唯同隊副長今村岩
雄ノ勤務ニ付司令官遺憾ノ意ヲ表シ其ノ交代ヲ要求シアリ）其ノ原
因了解ニ苦シム所ナルモ現職局ヨリ兵力ヲ重點的ニ配備強化スル狀

通二〇三三・一〇二〇九
日ケ一八三六七・五〇二二通
海一 軍

第十信

況ニ鑑ミ陸軍ニ於テハ既ニ「チモール島」ヨリ大部ノ兵力ボルネオ
 西方ニ轉進ヲ實施シツツアリ當隊トシテモ前線方面ハ可動兵器ハ極
 力之ヲ撤收殘存兵器及見張ニ必要ナル最小限度ノ兵力ノミ殘留スル
 方針ニテ^{兵力}配備變更ヲ考慮シアリテ此ノ際第四警備隊ハ之ヲ解消シ大
 分ノ兵力ジャワ地域ノ轉進爾余ヲ取敢ズ第六警備隊ニ擔任ヒシムル
 様上申ヒラルル内意ニシテ本件モ自ラ解決スルモノト認メラルルニ
 付御含ミ置カレ度。

【東通註 「五月下旬」ハ翻譯ニ誤ナシ
 五月下旬ハ五月上旬ノ作成誤ニアラザルカ】

Handwritten notes in Japanese, possibly a summary or report, located at the top of the page.

小祿警備隊戦闘概報第二號（廿七、廿八日）

一、當地區ニ對スル砲撃ハ相當熾烈ニシテ特ニ海岸飛行場附近ニ對スル

モノ多ク飛行機ノ行動活潑ニシテ攻撃セルモノ十七日二〇機十八日

三〇機

二、第二次挺身刃込隊准士官以上二名下士官兵軍屬五九名十七日夕刻出

通一〇五三六一〇五三七一〇五六五 呂一B（七八七五C）一KFGB放

八〇二四五番電 三分ノ二、三

作	部	隊
J	G	D



空（小祿空基地）

一〇一四〇

電自〇〇九四二二〇 作概〇

小祿警備隊長
本營地

五 一九 受信 〇九三三 〇 譯了 一一四 〇 電自 〇〇九四二二 〇 作 概 〇

局長	評	天	號	部	隊
展	天	天	作	隊	隊
天	天	天	作	隊	隊
天	天	天	作	隊	隊
天	天	天	作	隊	隊
天	天	天	作	隊	隊

機密第一九〇二四五番電 三分ノ二二三

發 小祿警備隊長

小祿警備隊戰鬥概報第二號(廿七、廿八日)

一 當地區ニ對スル砲撃ハ相當熾烈ニシテ特ニ海岸飛行場附近ニ對スル

モノ多ク飛行機ノ行動活潑ニシテ攻撃セルモノ十七日二〇機十八日

三〇機

二 第二次挺身切込隊准士官以上二名下士官兵軍屬五九名十七日夕刻出

發

通一〇五三六九〇五三七一〇五六五 呂JB(七八七五七) 一KFGB放

(一)

三十八日二三〇〇ヨリ海陸軍砲台天久敵陣地砲撃
四戰果

- (イ) 第一次斬込隊員ノ其ノ後歸還セルモノ四名(計三一名)外ニ二二
六設營隊單獨實施ノモノ一名戰果幕舎破壊二
- (ロ) 十八日一一〇〇大嶺海岸沖ニ坐礁セル敵驅逐艦ニ對シ陸上砲台ヨ
リ砲撃大爆發炎上シアリタルモ一七〇〇迄ニハ敵ハ砲撃處分セリ
他ニ附近ニアリシ二〇〇噸級給油船及曳船各一隻擊沈

五被害

- (イ) 十六日彈藥強行輸送中戰死兵四軍屬一〇重傷傷兵一〇軍屬二
- (ロ) 其ノ他戰死兵二重傷軍屬二
- (ハ) 軍需部 機銃陣地半壞地上施設全壞

五 一九 受信一九三〇 譯了二一五四 電〇九七八六 軍務・艦政
親至 展急 譯始二〇四六

東 通・横 通

機密第一九一四五二番電

發 豐川工廠長
宛 海軍大臣 横領長官 艦政本部長
本日一一四〇當工廠指揮兵器部ニ百疋程度ノ爆彈落下死者三一 傷者
四三名 損傷建物約三五〇〇平方米損傷機械約三〇臺ニテ差當リ指揮
兵器機械作業ノ復舊ニ約二週間ノ損害ヲ受ケタリ目下詳細調査中。

通一〇八二四 呂一Bケ十一(B) 木空 長尾(森) 田)

